**那須温泉**

那須温泉の歴史は千年以上前にさかのぼる。早くも8世紀の文献では、「那須七湯」は江戸時代（1603〜1867）後期までには、東日本屈指の温泉地として知られていたことが記されている。今でも温泉地として栄えている。それぞれの温泉の泉質や効能は異なるといわれている。

**那須湯本温泉**

この地域で最も古い温泉がある。それは鹿の湯、つまり「鹿の温泉」である。最初の記録は738年にさかのぼるが、言い伝えでは、630年、森の中で不思議な白い鹿を追いかけていたある狩人によって発見された。狩人は鹿に追いつき、温泉に浸かり傷を癒す鹿を見つけたと言われている。鹿の湯は、源泉温度が76℃の硫黄泉で、糖尿病、神経痛、倦怠感、痔核に効果があると言われている。

**大丸温泉**

大丸温泉は1691年に発見された。那須の奥地にある温泉のひとつで、茶臼山の東斜面の中腹にある。温泉は60℃で弱アルカリ性である。婦人科や腸の病気に効果があると言われている。

**弁天温泉**

弁天温泉が発見されたのは1840年、仏教の女神である弁財天（弁天とも呼ばれる）が地元の男の夢に現れ、彼を源に導いた。弱アルカリ性で湯の温度は50℃である。胃腸疾患、貧血、消化不良に効果的であると言われている。

**北温泉**

北温泉は1696年に発見された。温泉施設の一部が建てられた時代は、江戸時代（1603〜1868）後期にさかのぼる。数多くある浴場の中にはプールサイズほどの大きさの露天風呂があり、他には巨大な天狗（鼻の長い鳥人間）のお面で囲まれた浴場もある。温度54℃の単純泉で、子供の病気、リウマチ、不妊症に良いと評判である。

**八幡温泉**

八幡温泉（現在は閉鎖されている）は明治時代（1868～1912）初期の1890年に発見された。5月中旬から6月上旬にかけて2万本ものツツジが咲き誇る山の斜面の近くにある。この塩泉は65℃で、神経障害、心臓病、胃腸障害を助ける働きがある言われている。

**おおるり温泉**

おおるり温泉は、かつて山岳修験者が身を清めるために利用していたもので、1860年に発見された。35℃の弱酸性の硫黄温泉で、皮膚疾患や慢性的尿路疾患の治療に役立つと言われている。

**三斗小屋温泉**

三斗小屋温泉は1142年に発見された酸性温泉である。標高1,500mの朝日岳の西斜面にあり、茶臼岳山頂にある那須ロープウェイ駅より徒歩2時間のハイキングでしかたどり着けない。源泉温度90℃の温泉は、神経障害、潰瘍、皮膚疾患の治療に効果があるとされている。